



(12) モバイルテレビの最新動向

野村総研(上海)咨询有限公司

◇放送開始、五輪前に商用化

2006年9月に、北京市六環路内側の市中心部エリアで、中国初のモバイルマルチメディア放送サービスがスタートした。現在のところ視聴は無料で、ユーザーは携帯電話を利用して、中央電視台(CCTV)や北京電視台(BTV)の10チャンネルの音声と、2チャンネルの映像サービスを体験できる。このサービスはDAB(音声)/DMB(画像)という技術標準を利用している。現在利用可能な端末はまだ少なく、聯想(レノボ)が先日販売したDABチップ内臓モバイルテレビ付携帯電話ET-980(6000元)などである。中国広電総局の話によると、07年中にモバイルテレビのテストネットワークを完成させ、2008年北京五輪前には商用化する予定だ。



ET-980

これまでに、中国広電総局が発行したDAB/DMB方式によるケータイテレビサービス実験のライセンスは以下の通りで、3つだけだ。

	実験主体	実験開始	カバー人口
北京	北京悦龍デジタル放送メディア技術(有)	2006年	1,200万
上海	上海東方明珠集团公司	2005年	1,500万
広東	広東モバイルテレビメディア公司	1997年	8,000万

先行されたDAB/DMB方式に対抗し、他の標準方式の動きも注目される。

06年9月27日携帯最大手のノキアが浙江広電集団と同集団傘下の浙江広電光点移動電視共同で、新型携帯電話端末「N95」を利用したDVB-H方式によりモバイルテレビサービスを行うことを発表した。ノキアのほか、モトローラやソニーエリクソンもDVB-H方式によるモバイルテレビ端末を推進する方針だ。

◇技術標準乱立し、合戦状態

通信キャリアも黙ってられない。05年から実験を始めたチャイナモバイルと上海東方龍モバイル情報有限公司は、共同でGPRSでのケータイテレビサービスの実験を行ったが、1年間足らず加入者は5千人に達した。月課金20円で12チャンネルを見られる。適用機は45機種に及ぶ。チャイナユニコムは06年9月に既存のCDMA1Xネットワークを利用したケータイテレビサービス「TIME計画」開始。ニーズに合わせて4種類のプランを用意し、20機種が対応可能だ。

技術標準の合戦は続くが、政府の本音はSTiMi中国国内標準を推進したいところだ。しかし、中国は既に地上波、衛星、通信ネットワーク3つの転送手段で、海外と国内の技術標準が乱立して、戦っている状態と言える。

主な画像技術標準と特徴

分類		標準名	開発エリア	メリット	デメリット
地上波放送	国際標準	DVB-H	欧州諸国	テスト時期が長い、世界中に幅広く支持される。	デジタルテレビ標準から開発されたもの、技術欠点がある。
		MediaFlo	米国	省エネ、高移動性、コンテンツ豊富	開発期間短。一社ライセンス独占
		T-DMB	韓国	中国のDAB標準と共通性が高い	コンテンツが少ない
		ISDB-T	日本	他のデジタル放送方式にも適用	日本独特の色が強い
	中国標準	StiMi	放送科学研究院	自主知的権利、広電からの支持得る	開発期間短。政策面不備ある。
T-MMB		中国放送大学	韓国DMB方式の改良、汎用性ある	政府の支持が弱い	
DMB-TH		清華大学	中国地上デジタル方式からの進化	高速移動適用せず	
衛星		S-DMB	韓国、日本	カバーエリアは大きい、CHINASAT参入	設備投資大
通信		GPRS/CDMA 1X	米国、中国	ネットワーク構築投資少	大量な帯域を使われる、速度不足

(主任コンサルタント 吉永 / 総経理 中島)